2-③ 正しい反逆

＜正しい反逆＞(P45~)

-人為的だと感ずるもの全てに反するのだ

想像上のアイデンティティは人の心理構造に混沌（こんとん）をつくりだす。二つの銀魚（ぎんぎょ）が打ち合うように、偽りのアイデンティティとアイデンティティは葛藤（かっとう）を産む。たとえば人は、自分は強い'そう努めれば努めるだけ、彼の苦悶（くもん）は増す。ほんとうは、それらの想念が心に浮かんだとき、レッテル貼りや是非善悪（ぜひぜんあく）の判断や、弾劾（だんがい）その他の反応はせずに、黙って通り過ごさせな考案（こうあん）された、ないし人造（じんぞう）の自己が消えていけば、痛苦（つうく）に満ちた妄想（もうそう）も消えてしまう。妄想は幻影（げんえい）である。こうした幻影のひとつはたとえば、誰かがあるいは何誰も他人を、〞制限する''ことなどできるわけがない。すくなくともあなたがこのことを理解しているかぎり、誰もあなたを制限し、鎖でしばることはできない。鎖は間違った思考のなかにしか存在しないのだ。

だが、反逆 ── 正しい反逆 ── を追求（ついきゅう）する場はある。あなた自身の内部にある、あなたが人為的だと感得（かんとく）するあらゆるものに対しては、反逆するのだ。そしてあなたのあるがままのものとお分（わ）かりになったろうか ── 偽りの自己が考えるところと、真実の自己が知るところとでは天地（てんち）の差があることが。だから、鬱陶（うっとう）しい部屋へ流れこんでくる涼風（りょうふう）を大歓迎するあなたというものが無（Nothingness）であると知ることは、あなたが想像するほどの惨事（さんじ）ではない。いやそれは実際には充実（じゅうじつ）なのである。惨事に見えるだけなのだ。われわれがぼいったん把握（はあく）すれば、このアイディアほど、あなたを不必要（ふひつよう）な重荷（おもに）から解放（かいほう）してくれるおおいなる助（たす）けはない。不必要な重荷のなかには間違った罪悪感（ざいあく

Revision #6
Created 16 October 2024 07:18:39 by ゆう
Updated 17 April 2025 23:24:04 by しほ